

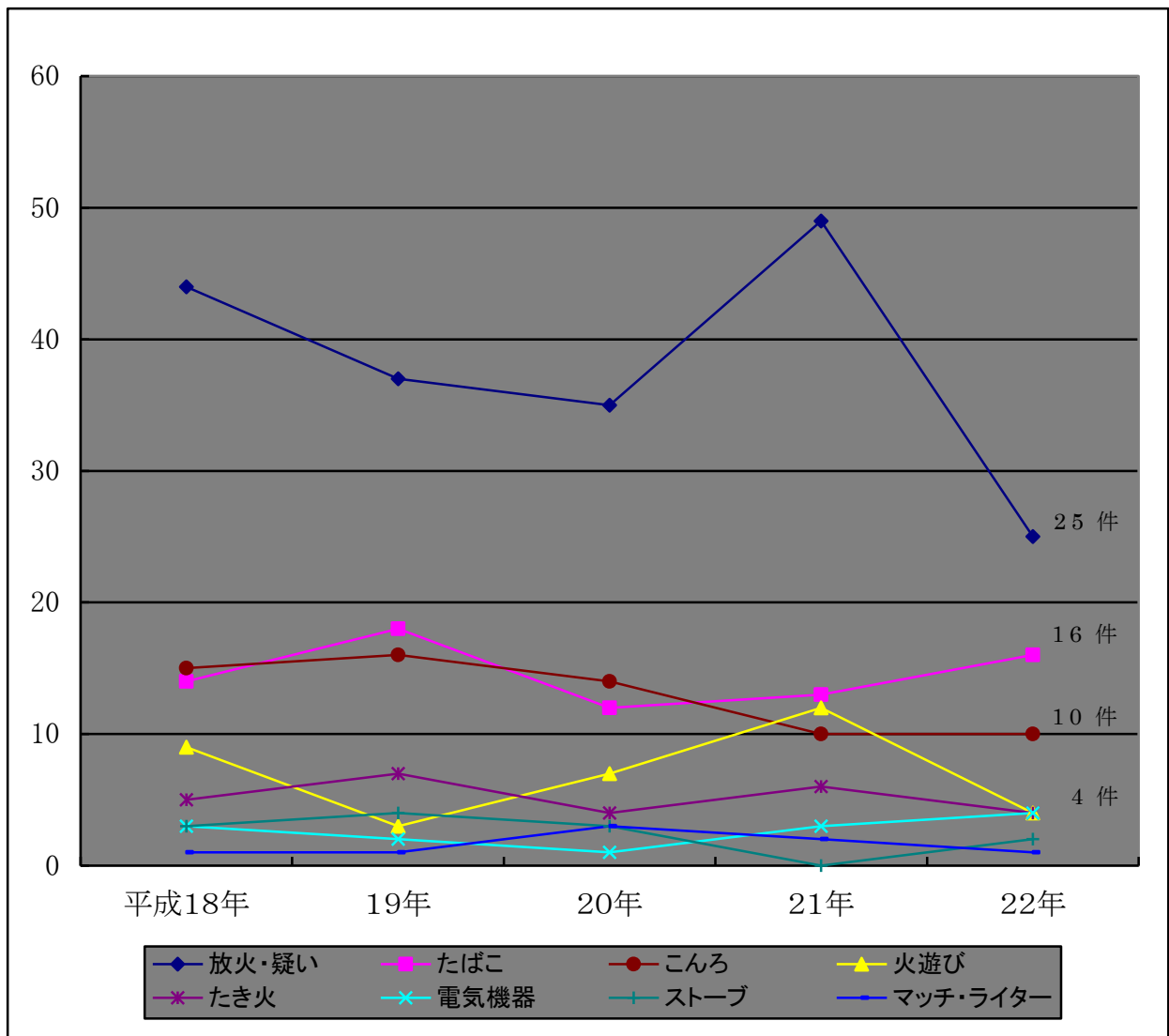
第 2 章 出火原因別火災状況

平成 22 年中の出火原因で最も多いのが「放火（「疑い」を含む、以下同じ。）」で、25 件発生している。次いで「たばこ」16 件、「こんろ」10 件、「火遊び」、「たき火」、「電気機器」各 4 件の順となっている。

過去の主な出火原因件数をみると、「放火」、「たばこ」、「こんろ」が常に出火原因の上位となっている。

最近 5 年の出火原因の状況は表 2-0-1 に示すとおりである。

表 2-0-1 出火原因別件数状況（最近 5 年）



平成 22 年の出火原因上位である「放火」、「たばこ」、「こんろ」の 3 つについて、以下取り上げる。

1 放火

(1) 火災状況～20年連続、出火原因の1位～

平成22年中の「放火」による出火件数は、前年に比べ24件減って25件であり、全火災（103件）の24.3%となっている。放火による火災は、前年から約半数の発生件数となったが、平成22年において出火原因の1位であり、平成3年から20年連続して出火原因の1位となっている。

最近5年間の放火火災の状況は表2-1-1に示すとおりである。

表2-1-1 放火火災一覧（最近5年）

平成	出火件数（件）										焼損床面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者 (人)	負傷者 (人)
	合計	建物	焼損棟数（棟）					林野	車両	その他				
			全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計							
18	44	13	3	0	6	6	15	4	3	24	259	19,720	2(2)	3
19	37	9	1	0	2	9	12	0	2	26	19	2,280	2(2)	1(1)
20	35	14	2	0	8	6	16	3	2	16	604	26,405	1(1)	1(1)
21	49	21	2	1	4	15	22	1	5	22	509	62,462	4(4)	1
22	25	10	1	1	7	5	14	1	4	10	80	14,915	1(1)	0

（備考）1 焼損棟数に類焼棟も含む。

2 死者及び負傷者の（）は、放火自殺者を表す。

放火による火災の種別は、建物火災が10件で40.0%、その他の火災が同じく10件で40.0%となっており、車両火災4件（16.0%）、林野火災1件（4.0%）となっている。

放火による火災の損害額は14,915千円で、火災による損害額全体（109,061千円）の13.7%となっている。

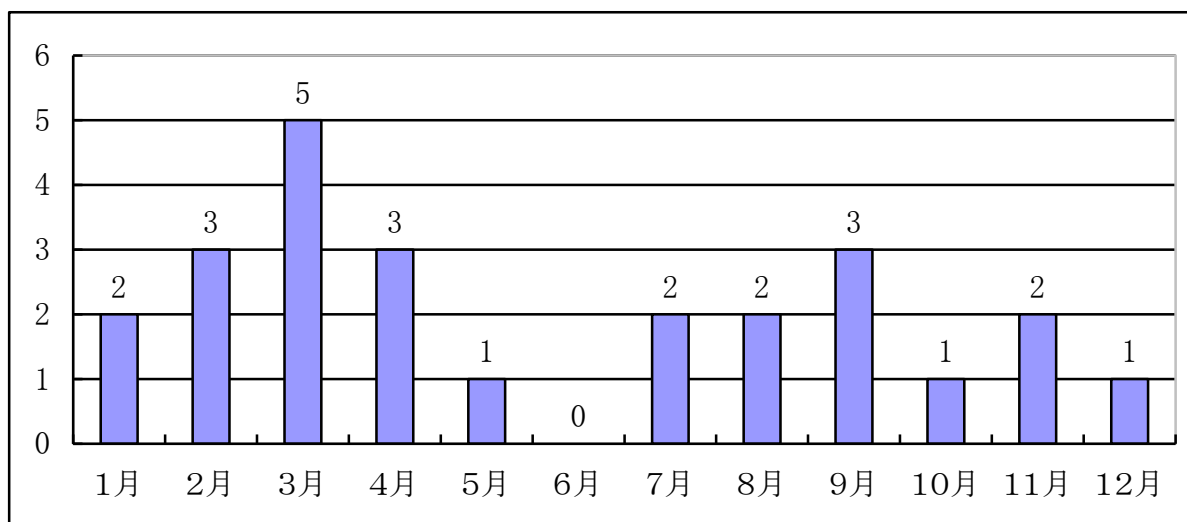
(2) 発生時期～年間を通して、暗い時間帯に発生～

ア 月別発生状況

放火火災 25 件について、発生状況を月別にみると、3 月に 5 件で 20.0% と最も多く発生しているが、顕著な差はなく、年間を通して発生している。

月別発生状況は、図 2-1-1 に示すとおりである。

図 2-1-1 月別発生状況（単位：件）

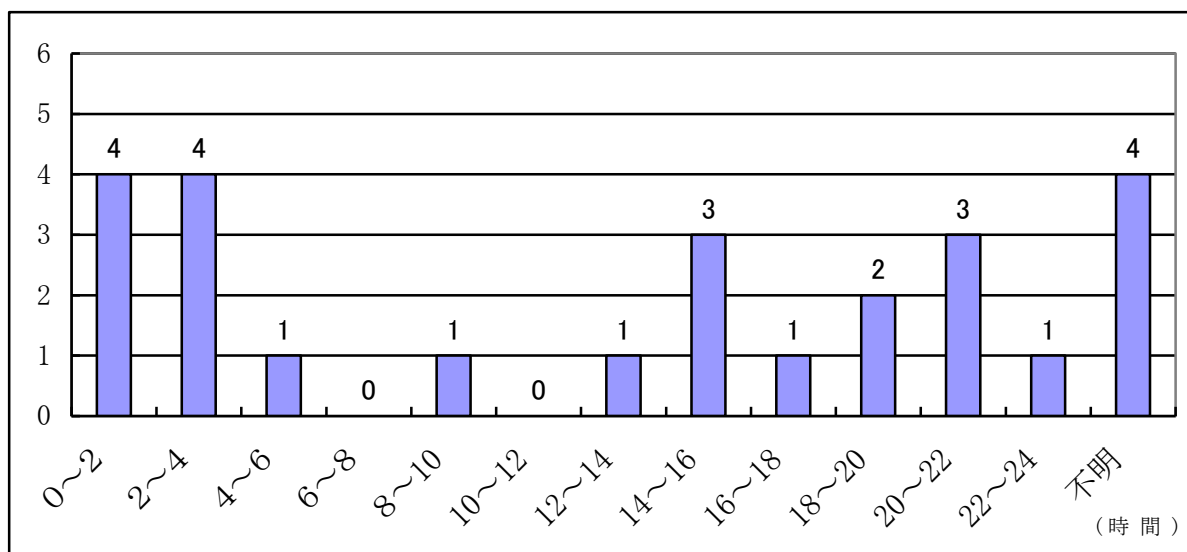


イ 時間帯別発生状況

放火火災の 25 件について、発生状況を時間帯別にみると、周りが暗くなる 20 時から翌 6 時の時間帯に 13 件発生し、52.0% を占めている。

時間帯別発生状況は、図 2-1-2 に示すとおりである。

図 2-1-2 時間帯別発生状況（単位：件）

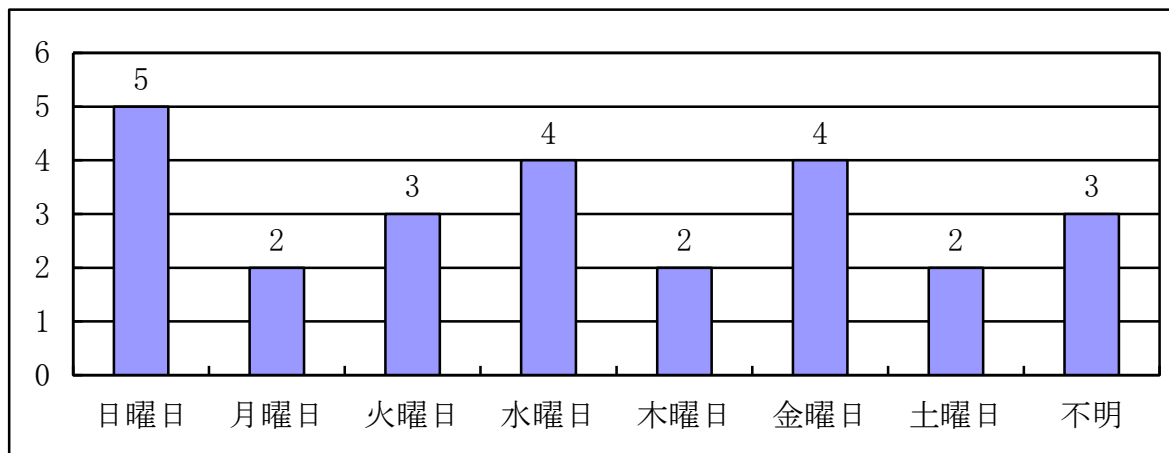


ウ 曜日別発生状況

放火火災の25件について、発生状況を曜日別で見ると、日曜日に5件で20%と最も多く発生している。また、平均の3.5件を上回る曜日は日曜日、水曜日、金曜日だが、顕著な差は見られない。

曜日別発生状況は、図2-1-3に示すとおりである。

図2-1-3 曜日別発生状況（単位：件）



(3) 出火箇所と着火物～燃えやすい物に火を点ける～

放火による火災25件を、建物火災と建物火災以外の火災に大別してみると、建物火災は10件、建物火災以外の火災は15件発生している。

建物火災10件の出火箇所をみると、建物内部で6件、建物外部で4件発生し、建物内部6件のうち、居室内が最も多く3件となっている。

建物火災以外の火災15件の出火箇所をみると、敷地・公園が最も多く6件となっている。

着火物をみると、建物火災では紙製品が最も多く3件で、建物火災以外の火災では枯草・落葉が最も多く6件となっている。

放火火災の出火箇所及び着火物の内訳は、表2-1-2及び表2-1-3に示すとおりである。

表 2 - 1 - 2 建物火災の出火箇所及び着火物（単位：件）

出火箇所	合計	着火物												
		紙製品	ごみ類	紙屑類	繊維類	車両関係	枯草・落葉	合成樹脂類	木質類	石油類	立木	建具	壁材・床材	その他不明
合計	10	3	1		1	1		2						2
建物火災の放火場所	不明													
	内部	共用部分	1											
		倉庫・物置												
		居室内	3	1		1								1
		作業場												
		店舗・客室	2						2					
	管理・休憩													
外周部	4	1	1			1							1	

（備考） 「建物内部」には、建物内部に何者かが侵入したものと及び外周部から建物内部に火源等を投げ込んだものなどを含む。

表 2 - 1 - 3 建物火災以外の火災の出火箇所及び着火物（単位：件）

出火箇所	合計	着火物												
		紙製品	ごみ類	紙屑類	繊維類	車両関係	枯草・落葉	合成樹脂類	木質類	石油類	立木	建具	壁材・床材	その他不明
合計	15		3	1	1	4	6							
建物火災以外の放火場所	敷地・公園	6	2	1	1	1	1							
	道路・空地	4	1			1	2							
	雑木林等	1					1							
	田畑	1					1							
	河川敷等	1					1							
	車庫・駐輪場	2				2								
	ごみ集積場													
	その他													

(4) 用途別～居住系建物で7割発生～

放火による建物火災10件を火元建物の用途別にみると、70%が居住系の建物で発生している。また、不特定の人が入り出す物品販売店舗や、共同住宅での発生が顕著である。

建物用途別発生状況は、表2-1-4に示すとおりである。

表2-1-4 建物用途別発生状況（単位：件）

火元の用途												
合計	居住系					事業系						
	小計	一般住宅	共同住宅	併用住宅	住宅付属建物	小計	複合用途	物品販売店舗	倉庫	作業場	旅館・ホテル	その他
10	7	3	4	0	0	3	0	2	0	1	0	0

2 たばこ

(1) 火災状況～3年ぶりに増加～

平成22年中の「たばこ」による火災件数は、前年より3件増え16件であり、全火災（103件）の15.5%となっている。

最近5年間のたばこによる火災の状況は表2-2-1に示すとおりである。

表2-2-1 たばこによる火災一覧（最近5年）

平成	出火件数（件）									焼損床面積 (㎡)	林野焼損面積 (a)	損害額 (千円)	死者 (人)	負傷者 (人)	
	合計	建物	焼損棟数（棟）					林野	車両						その他
			全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計								
18	14	4	0	0	0	4	4	1	1	8	0	0	4,169	0	0
19	18	8	1	1	4	2	8	0	1	9	257	0	13,851	1	1
20	12	6	1	0	3	2	6	0	3	3	143	0	23,802	1	1
21	13	6	0	1	3	2	6	0	1	6	63	0	11,274	0	8
22	16	7	0	0	4	3	7	0	1	8	74	0	27,772	0	0

（備考）焼損棟数に類焼棟も含む。

たばこによる火災の種別は、その他の火災が8件で50.0%を占め、次いで建物火災が7件（43.8%）、車両火災1件（6.3%）となっている。

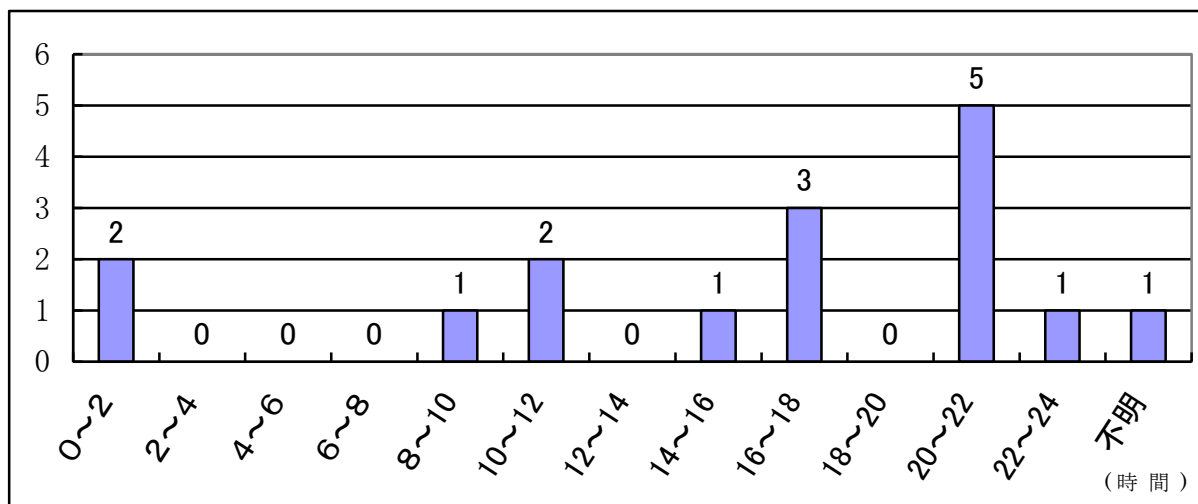
たばこによる火災の損害額は27,772千円で、火災による損害額全体（109,061千円）の25.5%を占めている。

(2) 発生時期～夜間に多発～

たばこによる火災 16 件について、発生状況を時間帯別にみると、20 時から翌 2 時までの夜間に多く 8 件で全体の 50% を占めている。

時間帯別発生状況は、図 2-2-1 に示すとおりである。

図 2-2-1 時間帯別発生状況（単位：件）



(3) 出火箇所と着火物～ごみに着火が多い～

「たばこ」による火災 16 件を出火箇所で見ると、主に建物の部分は 7 件、建物以外の場所は 9 件発生している。

主に建物の部分で発生した 7 件をみると、居室が最も多く 6 件で 85.7% を占めている。

建物以外の場所をみると、様々な場所で発生している。

着火物をみると、主に建物の部分で発生した 7 件では、ごみ類が 3 件、繊維類（布団・寝具）が 2 件あり、吸殻の火消しが不十分なままごみ箱に捨てられたものや、寝たタバコが原因とみられる。

建物以外の場所で発生した 9 件では、枯草・落葉が 4 件、ごみ類が 3 件あり、投げ捨てられたり、消火不十分の吸殻がごみとして捨てられたことが原因とみられる。

たばこによる火災の出火場所及び着火物の内訳は、表 2-2-2 及び表 2-2-3 に示すとおりである。

表 2 - 2 - 2 主に建物部分の出火箇所及び着火物（単位：件）

出火箇所		合 計	着 火 物											
			紙 製 品	ご み 類	紙 屑 類	織 維 類	車 両 関 係	枯 草 ・ 落 葉	合 成 樹 脂 類	木 質 類	石 油 類	立 木	建 具	壁 材 ・ 床 材
合 計		7		3	1	2								1
主に 建物 部分	共用部分													
	倉庫・物置													
	居室内	6		3		2								1
	作業場													
	店舗・客室													
	管理・休憩	1			1									
外周部		0												

（備考）着火物の繊維類 2 件は、「布団・寝具」。

表 2 - 2 - 3 建物以外の場所の出火箇所及び着火物（単位：件）

出火箇所		合 計	着 火 物											
			紙 製 品	ご み 類	紙 屑 類	織 維 類	車 両 関 係	枯 草 ・ 落 葉	合 成 樹 脂 類	木 質 類	石 油 類	立 木	建 具	壁 材 ・ 床 材
合 計		9		3	1		1	4						
建物 以外	敷地・公園	3		1	1			1						
	道路・空地	1						1						
	雑木林等													
	田 畑													
	河川敷等													
	車庫・駐輪場													
	ごみ集積場	2		2										
	そ の 他	3					1	2						

（備考） 1 出火箇所「その他」のうち 2 件は、軌道敷内。

2 出火箇所「その他」のうち 1 件は、車両の荷台。

3 こんろ

(1) 火災状況～主に天ぷら油から出火～

平成22年中の「こんろ」による火災件数は、前年と同じ10件であり、全火災（103件）の9.7%となっている。

こんろによる火災のうち、「天ぷら油」が起因する火災が最も多く4件で40.0%を占めている。（「(3) 出火箇所・着火物・出火原因」参照。）

最近5年間のこんろ火災の状況は図2-3-1に示すとおりであり、天ぷら油による火災の状況は表2-3-1に示すとおりである。

図2-3-1 こんろ火災の状況（最近5年、単位：件）

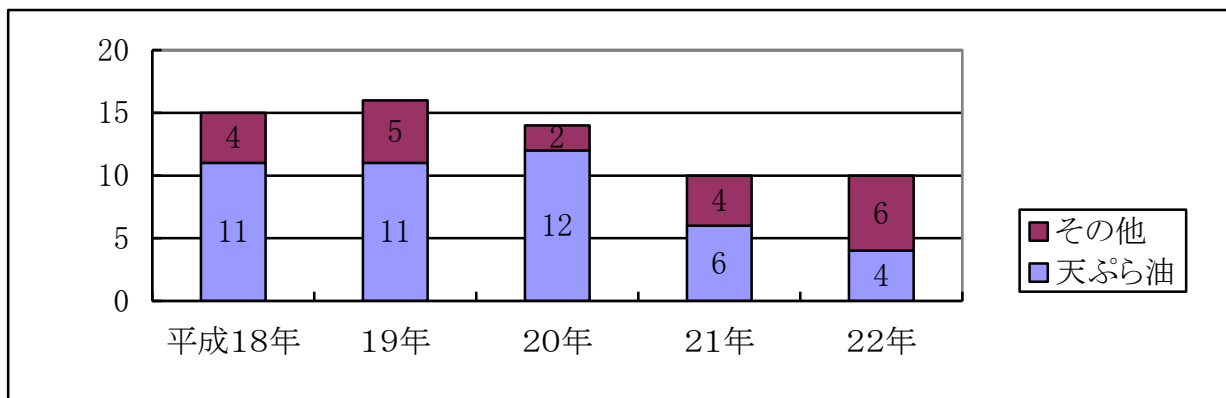


表2-3-1 天ぷら油による火災の状況（最近5年）

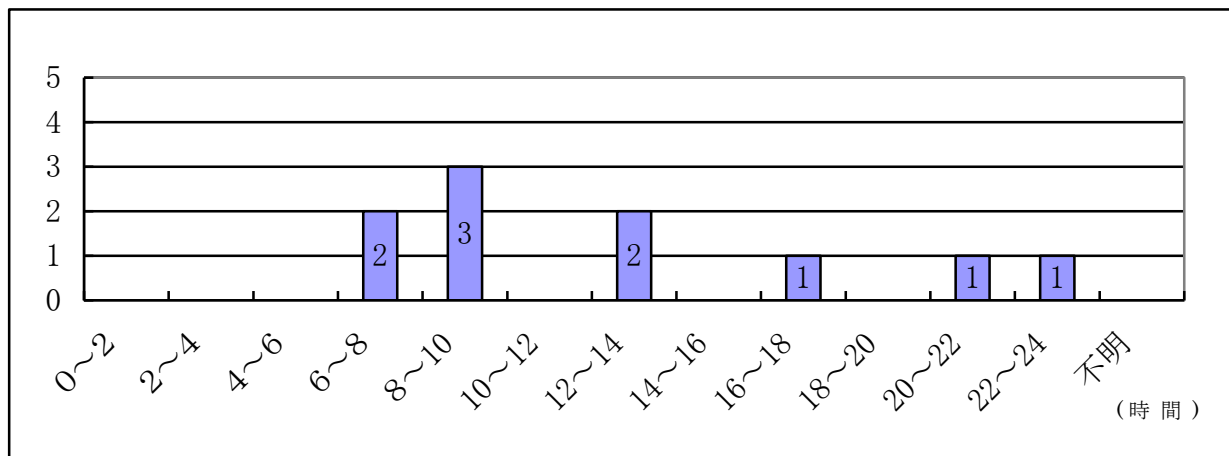
平成	建物火災（件）					焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	焼損棟数 (棟)	り災世帯 (世帯)	死者 (人)	負傷者 (人)
	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや							
18	11	0	0	7	4	51	5	2,486	11	10	0	7
19	11	2	0	5	4	220	3	39,098	13	9	0	6
20	12	0	0	7	5	52	130	23,681	12	10	0	0
21	6	0	0	3	3	11	34	1,265	6	6	0	1
22	4	0	0	3	1	8	2	186	4	4	0	1

(2) 発生時期～食事時間帯に集中～

こんろ火災 10 件について、発生状況を時間帯別にみると、食事の時間帯で発生している。

時間帯別発生状況は、図 2-3-2 に示すとおりである。

図 2-3-2 時間帯別発生状況（単位：件）



(3) 出火箇所・着火物・出火原因～天ぷら油の放置～

こんろ火災 10 件を出火箇所で見ると、居住用途部分は 9 件、居住用途部分以外は 1 件である。

着火物は、天ぷら油（動植物油）が 4 件で 40.0% を占め、次いでぼろ・油ぼろが 3 件（30.0%）、炊事台が 1 件（10.0%）、その他が 2 件（20.0%）となっている。

原因別で見ると、「放置・忘れる」が 6 件で最も多く 60.0% を占めている。次いで「過熱」が 3 件（30.0%）である。

(4) 初期消火～粉末消火器が有効～

こんろ火災 10 件について初期消火の状況を見ると、8 件で初期消火が行われ、そのうち 6 件で初期消火成功となっており、成功率は 75.0% である。

初期消火の方法を見ると、「粉末消火器」が 4 件の他、「寝具・衣類をかけた」、「水バケツ」、「水道水」、「その他」が各 1 件となっている。